

宮本、たつみ氏ら在阪交響楽団から聞き取り



26 日党大阪府委員会新型コロナ対策本部が在阪交響楽団から実情の聞き取りをおこないました。聞き取りには宮本たけし前衆院議員（比例近畿・大阪 5 区重複）、たつみコータロ一前参院議員（党府対策本部長）らが、近畿ブロックから堀内照文前衆院議員が参加しました。

関西フィルハーモニー管弦楽団では、浜崎元専務理事、松井清悟事務局長が対応しました（左写真）。

2 月中旬から 3 月にかけての依頼公演が 9 公演中止・延期に。浜崎専務は「主催者から出演料、キャンセル料はもらえないが、こちらがお願いした楽団員以外のエキストラ、指揮者へのキャンセル料を払わないといけない」といいます。自ら主催する 3 月末の定期公演も海外からのソリストが入国できなくなり中止に。浜崎専務は「損失補てんをしてもらうのが一番」と訴えました。

日本センチュリー交響楽団では望月正樹専務理事・楽団長が対応。もともと府営だった同楽団ですが、維新府政のもと支援が打ち切られ独立した経緯があります。そのもとでスポンサーを探しているさなか、今回の新型コロナウイルス感染症拡大に見舞われたといえます。

3～4 月の依頼公演はすべて中止に。主催公演も一部無観客・ライブ配信はあるものの中止を余儀なくされ、収入がない中でも人件費はそのままかかってきます。またメンバー以外にエキストラ、フリーの演奏者をお願いしていた分のキャンセル料を払わないといけませんが、主催者からもらえる見通しもたちません。そうすると楽団がかぶることになります。

望月専務は「決定をゆだねられているのはしんどい。国がこういう形でフォローするから、今はやめておけば何の迷いもなく中止できる。責任はこっちにあって最終決断を迫られるのはやり切れない。精神的な疲労が大きい」と訴えられました。

宮本氏らが、この間の党の国会論戦も示しながら「中止した公演のキャンセル料などの補てん、当座の資金繰りの融資、今後の再開に向けた思いきった支援が必要」と指摘すると、望月専務は「その 3 つのケアがあると希望が持てる。ぜひそういうことを発信してほしい」と応じました。

苦難軽減、問題解決とともに、希望ある政治への根本的転換を

近畿各府県で、国会議員らが参加した懇談、対策会議がおこなわれています。京都府委員会は 20 日、穀田、倉林、井上、大門の各議員が参加して地方議員団や各種団体との懇談をおこないました（右写真）。大阪府委員会は 22 日に清水議員が参加して地方議員団長を交えた対策会議を、兵庫では 15 日に宮本前議員が参加して同様の会議を、和歌山、奈良両県委員会もそれぞれ 15 日、24 日に対策会議をしています。



それぞれの会議では影響、実態とともに制度の到達点など情報を共有するとともに、「問題はすぐ相談してほしい。同時にお互い連帯して根本にある安倍政治の転換を見定めながらやっていこう」（京都の会議での穀田議員発言）などと意思統一しました。

取り組みなど情報を近畿ブロックまでお寄せください

20 近畿ブロック事務所ニュース

Tel.06 (6975) 9111 Fax06 (6975) 9115

【府県・地区・地方議員御中】

No. 21 (2020. 3. 27)